

自治基本条例特集 [part.7]

町民が主役のまちづくりを目指して

今月号では、10月25日（火）に開催した第1回自治基本条例検討委員会（条例の具体的な内容を検討する場）について報告します。

公募で集まった町民22人と町の職員18人の計40人で構成される検討委員には、10代の大学生から子育て世代、70代の人まで幅広い世代がバランス良く集まりました。

今回は初顔合わせ。加藤武志氏（中京大学現代社会学部講師）がファシリテーター^{*}を務め、全員が輪になって自己紹介を兼ねたゲームを行ったり、これから条例を検討していく上でのワークショップ（話し合い）の基本的なルールや約束事を共有したりしました。

※中立な立場を保ちながら、合意形成や相互理解に向けた深い議論がなされるように調整する役

「アイスブレイク」でスタート

初めての検討委員会ということもあり、緊張した様子の皆さん。緊張をほぐすために「アイスブレイク」（氷を砕くように心をほぐすこと）を最初に行いました。ゲーム形式の席替えや、2人1組みになって自己紹介をしながら、お互いの似顔絵を描いて名札づくりをしている間に、皆さんの表情も徐々に柔らかくなり、和やかな雰囲気となりました。



夢語り「希望の葉っぱに願いを込めて」

自治基本条例を検討していく第一歩として、葉っぱに見立てた2枚のカードに、①自治基本条例に期待すること・盛り込みたいこと ②自分が検討委員会でできること（これならできるとかも）を書きました。その後、各自発表して、一枚の模造紙に描かれた木「東郷ツリー」に貼っていきます。

皆さんの熱い思いが詰まった「希望の葉っぱ」が生い茂りました。

①条例に期待すること・盛り込みたいこと

町民が主役になれる条例、多くの町民に参加してほしい、東郷町をみんなが住みたくなるような町にする条例、次世代への環境づくりなど



②自分にできること

明るい雰囲気づくり、盛り上げ役、得意分野で貢献したい（イベントならおまかせ！など）、しっかり意見を聴く、意見を出す、とにかく頑張るなど

